【　　】

氏名	黒　住　健　人
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３９１２号
学位授与の日付	平成１６年３月２５日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	Open Reduction for Intra-articular Calcaneal Fractures: Evaluation Using Computed Tomography （踵骨関節内骨折の観血的治療-CTを用いての評価-）
論文審査委員	教授　平木　祥夫　教授　村上　宅郎　教授　光嶋　勲

学位論文内容の要旨

踵骨骨折の治療成績に影響をおよぼす因子を検討した。1997 年より 2002 年までの 6 年間に外側アプローチを用いて観血的に治療を行い、経時的に単純 X 線を撮影でき、また抜釘後にも CT を撮影しえた成人片側関節内骨折 67 例を対象とした。患者の背景、単純 X 線および CT での計測・評価などの 34 因子を検討した。

患者の背景として治療成績と相関した因子は年齢であった。単純 X 線では、受傷時の Böhler 角に治療成績との相関が認められた。CT では、受傷時は Sanders 分類、高さで治療成績との間に相関が認められ、抜釘後では後関節面の整復、踵立方関節の整復に相関が認められた。

踵骨骨折を観血的に治療するにあたり、予後を良好とするには術後因子である後関節面の整復と踵立方関節面の整復を重視する必要があると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、外側アプローチを用いて観血的に治療を行った成人片側踵骨関節内骨折67例について患者の背景、単純Ｘ線およびＣＴでの計測・評価などの34因子を検討した臨床的研究である。その結果、踵骨骨折の観血的治療において、後関節面と踵立方関節面の整復が予後を良好とする術後因子であることを明らかにしている。

これらは、踵骨骨折の治療成績に影響をおよぼす因子に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。